



里山とは？

大自然と都市との間に位置し、集落や人里に接した緑豊かな、人と自然が共存する森です。里山をイメージするとこのような感じになります。

以前、人々は里山から暮らしに必要な多くのものを得て、生活道具の材料や燃料・肥料などに利用していました。



里山の現状は？

時代の変化に伴い人々の生活は、里山からの恵みによる生活から都市での生活に移行し、里山はこれまで果たしてきた



効果的な機能を失い放置されるようになりました。人々はより便利

な生活を求めて自然全体を破壊し、生活エリアを拡大しています。

「青梅の森」も健全な自然豊かな森に見えますが、長年放置された状態が続いていたため、太陽の日差しが林床（地表面）まで十分に届かず樹木の育成環境は良いとはいえません。この環境を改善し保全するためには、人の手による定期的な間伐等の手入れが必要となります。



森の再生

森に人の手を入れることは、森の動植物の生態・生活にも影響を及ぼすことになります。

「青梅の森」では動植物への十分な配慮をしながら、地形、植生、動植物分布、維持管理や利用方向などを考慮し5つのゾーンに区分し再生、保全をします。



里山では、人間だけが主役ではなく、動植物たちもまた主役であり、相互がうまく共存できるようにすることが大切です。